

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700055		
法人名	医療法人 誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森2号館		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6851-1		
自己評価作成日	令和6年4月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年4月24日	外部評価確定日	令和6年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな多良岳山系に位置し、ふもとには有明海を望む、緑に囲まれたグループホームとして1号館が8年前に設立され、2号館が昨年5月にオープンしました。施設の畑では四季折々の作物が収穫でき、収穫した作物は食事に提供し、入居者様と協力して調理を行っています。 コロナ禍にオープンしましたが、利用者や家族の想いを大切に、面会や外出の希望にも寄り添い、地域への外出の機会を多く作り、日々の生活にも活気を生み出すような工夫を取り入れております。 また、併設の介護老人保健施設より各専門職による医療面と機能維持へのサポートが受けられる体制も整えてあります。職員は利用者の思いや感情を大切に、個性に合わせたサービスが提供できるよう、一緒に歩む心で、その時々に応じて最適な支援方法を模索し、向上心を持って試行錯誤を重ねています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設して間もなく1年の事業所である。運営と入居者との暮らしを両立させながら、まだまだ改善の余地があると試行錯誤中である。入居者は全体的に自立度が高く、そのため各自の性格も出てくるが、それを個性として理解ケアに活かしている。誘導等の声掛けでは成功例もあり職員間で共有される。また、研修をきっかけに改めて入居者主体である事を理解し直したという声も聞かれた。人材が育ち、互いのスキルアップに努めるチームワークの良さが窺える。世話をする側・される側ではなく、同じ家に住む家族であると話す管理者には、現場の職員への信頼と感謝がある。2年目に向けて楽しい事業所である。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、ユニットとして先に開設している施設で掲げている物を、管理者、職員も実践していた為、新施設開設後も同じ理念で実践したいと決めて他職員へも共有し、ケアの根拠としている。	隣接する1号館の開設時に当時の職員達が作り上げた「基本理念」「ケア理念」がある。新設された2号館でも想いを同じくする事業所として共有している。来訪者にも目に付く玄関に掲げ、常に立ち戻る基本である事を示している。「可能性を信じ」「想いを大切に」、また「個性を理解し」などを謳い実践している。日々の暮らしの中では職員が業務の手を止め、入居者の話に耳を傾けている。そこにはそれぞれの想いの受け止めと、ケアに活かそうとする姿勢が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域からの情報誌など、自治区から提供がある。町が開催する文化祭への出品と見学も実施した。また、かかりつけ医として地域の病院へ受診の際は日ごろの状況を相談し関係性を作っている。	同じ敷地内に介護老人保健施設(老健)もあり、法人全体として自治会に加入している。町の広報誌等は老健でまとめられ、地域の細かい情報などは運営推進会議の折や、地元に住む職員からも届いている。事業所では毎日の食材購入に地元の鮮魚店などを利用しているが、地域との繋がりを大切にす一例であり、顔が見える付き合いでもある。立地環境は見晴らしの良い高台だが周辺に民家はなく、緊急時の応援・見守りには難しい面もある中で、入居者が当たり前の暮らしを続けられるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高校生のボランティア活動の場として協力する事ができた。利用者家族との会話の中でも事業所での支援方法など折をみて伝え、相談できる事業所として意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ユニット合同での会議を2か月ごとに開催している。遠く離れた家族がオンラインで参加してくださる事もあり、事業所への率直な意見を頂いている。オンラインでの会議もサービス向上の一環となっていると思う。	会議は1号館と合同で開き、約1時間を要している。事業所からの報告のみで終始するのではなく、双方向な意見交換の場となっている。事故の一手手前の状況や異変にあたるインシデント報告では対策の過程も説明している。また、他事業所の会議に参加するメンバーもあり、情報として伝えてもらう内容が参考になることもある。現在、参加家族は固定しているが、今後は全体へ広げてみる案もある。自己評価では「この会議を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えている」と答えており、外部の目が入る貴重な機会を活かせるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修会への参加や、運営推進会議出席時の情報共有など行っている。法令、報酬についても適宜、介護保険事務所へ相談している。	行政側との協働関係は築けている。問い合わせや相談事があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。最近では介護報酬改定に伴う問い合わせを行い、実直に対応してもらった。また、1号館に訪れている介護相談員を今年度からは受け入れる予定もある。入居者の声を聞き取り、事業所への橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では毎月身体拘束の委員会が開催され、2か月毎に研修会を実施している。外部研修会にも参加し、身体拘束についての理解を深めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員には勉強会や研修の機会も多く、法人全体で実施する確認テストもある。身体拘束の内容やその弊害まで理解しており、玄関に施錠はなく、行動を抑えることもない。職員の目配りや気配り、いつもの席にいないければ居室の確認等によって安全で自由な暮らしが支援されている。仮に不適切な場面があれば、まず本人に理由を尋ね、考えさせ、内容によっては全体へ注意喚起するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の事業所内の研修のほかに外部研修会にも積極的に参加し、参加出来なかった職員へもアウトプットしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は定期的に研修を受けるが、他職員については今後地域で開催される権利擁護に関する研修会への参加を勧めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、噛み砕いた説明を行うよう心掛けている。報酬改定や介護度の変更などで料金変更などある点もあらかじめ説明し理解、納得を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保として設備に関して、利用者の中に家で楽しみに見ていたBSテレビを見たいと要望があり家族からも意見を聴取し追加工事を行った。毎月のお便りや面会等を利用し希望等が聞きだせるような工夫を行い、利用者が快適に生活できるよう出来る限りの対応を行っている。	面会は徐々に緩和されているが、現状では玄関にて15分程度、予約制である。家族の来所は多い。事業所では直接会話が出来る機会を大切にしており、日頃の様子や世間話も交えながら何でも話してもらえよう努めている。毎月の請求書送付時にはホーム便りを同封し、ふんだんに掲載された写真からは日常が垣間見え、家族にも好評である。今回の当外部評価アンケートには感謝も多く記されているが、気になる点として寄せられた件もあり、その返答を全ての家族に届けるため公表を検討している。運営推進会議での意見も同様で、出された意見には真摯に向き合おうとする姿勢が窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課と個人面談を実施している。	定例の職員会議はない。グループチャットで案件管理や連絡も取りやすいChatworkアプリが導入され、日頃から自由に発言もしやすい職場環境である。入居者が新調した靴が合わない事態の時は両足のサイズ違いに気付き、以後は全員が共有している。職員間の良好なコミュニケーションが窺える例である。また、事業所では現場にある程度の裁量を持たせ、業務分担や家族対応などを任せている。これは職員の自信へと繋がり、事業所立ち上げから約1年、多忙をきわめる管理者を支えている。管理者としては働きやすい職場となるよう配慮も必要だが、定時での帰宅や休暇取得に応え、日頃からのコミュニケーションを特に大切にしている。現場の声もきちんと法人に届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験、資格取得などを給与に反映させるシステムが整えられている。希望に沿った労働時間の選択も可能。出産、育児休暇、介護休暇の取得も整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適材適所で事業所内でのローテーション、スキルアップに向けての研修やコーチング、年2回の面談での聞き取りなどが実施されている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流会や事業所視察の取り組みがある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取りを重視し、不安や悩み、ニーズの把握を行っている。家族からの聞き取りも併せて必要な支援を見極め、適切なサービスを提供できるように努めており話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労を労うと同時に、これからの生活に抱えている不安も話しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族も安心して前向きな気持ちを抱けるように関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族への聞き取りと生活状況などから本人にとって必要と思われる支援を提案しながら、個性にあったサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するという概念をぬぐい捨て、一緒に共同生活をする中で起きる日々の出来事を楽しみ、時には悲しみ、利用者とともに感情を育む事ができるような関係性を築くよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を多く持っていただけるよう、本人が希望されれば連絡をとって面会して頂き、毎月のお便りの中には写真を添えて日ごろの様子を伝えるように努力している。困りごとなども家族へ相談をし知恵を頂きながら、共に本人を支える努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策で、まだどこへでもとはいかないが、かかりつけ医への受診、美容室でのカット、知り合いとの面会など制限なく支援している。携帯電話を使用して、友人との関係も継続されている方もいる。	これまでの人間関係の把握には本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーからも話しを聞くことがある。場合によっては病院関係者からも情報を集めており、それらを基に具体的な支援を行うことになる。しかし、コロナ禍の規制が緩和されたとはいえインフルエンザ等への危惧もあり、大人数や飲食を伴う場への参加には理解を求めている。電話はいつでも取次いでおり、面会や、受診で家族と一緒に出掛ける時間もある。高齢者が暮らす家として慎重な対応が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介を行い、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるよう努めている。また、お互いの持病や障害についても相互理解できるようわかりやすい説明に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了する際には、移り住む先の関係者に対して生活の状況やケアの方法などを丁寧に伝え本人の生活の質が落ちないように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の口に出して意向をはっきり伝える事が出来る方、出来ない方、それぞれに合わせて個別に時間を作ったり、散歩しながら話を聞くなど工夫している。表現されない場合でも、リアクションをみながら、無理のない暮らし方を聞き取っている。	入居者と一対一で話し相手をしている時、また入浴中の寛いでいる時などは想いを話してくれることがある。スキンシップを交えたり、答えに選択肢を用意した問いかけ方なども工夫している。入居者の中にはお気に入りの職員を待つ方や、管理者を上席と理解したうえで想いや考えを伝えてくる方もいる。日頃から業務中であっても手を止め、まず入居者と向き合ってきた過程がそれぞれの想いの把握へと繋がっている。聞き取った事は口頭や申し送りノート等に記すことで共有を図り、ケアプランに活かせるものがあれば反映させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない雑談のなかから得られる情報もある為、利用者、ご家族ともなるべく顔を合わせて話ができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の有する能力などは、職員間で共有し過介助にならないようにしている。また、過ごし方にもそれぞれ違いがある為日課に合わせてしまうような無理な支援にならないように注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施するほか、申し送り時にも気づきの共有を行っている。また担当者会議や面談時の本人やご家族からの意見、受診時の主治医からのコメントも介護計画に反映している。	ケアプランは6ヶ月毎に見直しを行っている。入居して間もない頃でも更新期間に沿っているが、変化があれば臨機応変な対応もある。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の意見等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは歩く機会を増やしてほしい等の残存能力維持に関する事が多い。職員の見守りの中で歩行や立ち上がり訓練が組まれている。全体的に自立度は高いが、歳を重ねる毎に身体能力の低下は否めない。出来るだけ緩やかな下降となるよう、職員は日々のケアを積み重ねている。また毎月のモニタリングは管理者が行い、パソコンに入力されたケース記録等が確認材料となる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録のほか、職員の気づきを申し送りし情報共有している。それらの情報を根拠に介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念に掲げるチャレンジ精神と自由な発想のもと固定観念に囚われず試行錯誤しながら支援を行っている。事業所の感染対策レベルに応じて可能な限り外出支援(ドライブ等)を実施できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染状況により規制する事もあるが、地域の高校からのボランティア活動に協力したり、町文化祭に出品の為に共同で作品づくりに取り組み、更に文化祭へ見学にも行く事が出来た。地域のイベント情報など共有しながら参加につながるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関を継続的に定期受診を行い、他にも歯科、眼科、皮膚科、認知症専門医などその時々々の症状に応じた受診を家族へ相談しながら本人の同意の元支援している。かかりつけ医とも受診時に情報交換を行い本人からも話やすくするなど信頼関係の構築を図っている。	法人母体である病院や、協力医でもある病院へ通う方など、全ての入居者が馴染みの医師をかかりつけとしている。昔から診てもらっているため病歴等では安心感がある。受診は基本的に家族対応だが職員が付き添う事も多い。家族への結果報告は定期受診や異状なしであっても当日中に行っている。家族が付き添う場合には日常の様子を医師へ伝える様式があり、専門医受診ではこれを活かしている。今回の当外部評価アンケートには「体調の変化などは適切に医療に繋いでくれる。」「報告もすぐに連絡がある。」と記され事業所への信頼が窺える。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護老人保健施設の医師、看護師との連携で24時間体制で相談が出来る。日々の健康管理や変化に対する対応や処置など相談できる環境であり迅速な対応も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、支援相談員と情報共有することで、早期退院に向けての体制づくりに努めている。家族や本人へも居室の確保で安心して治療されるよう説明を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化における指針の説明と同意を得ているが、現在まで看取りにつながる支援はない。今後も状態の変化などに際して家族と話し合いをしていくように努めている。	入居契約時には「重度化対応及び看取りに係る指針」の説明を行っている。開設して間もないこともあり、これまでに看取りの経験はないが、今後、希望があればそれに応えたいと考えている。一旦は決めていても揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし、医師からの説明機会も用意される。職員の不安解消のため日頃からの勉強会や、家族向けに心構えを記した冊子の検討など、事業所として何が出来るか模索を続けている。先行する1号館にアドバイスを求めつつ体制を整え、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護老人保健施設での救命対応心肺蘇生法、AED取り扱いの研修が実施されているが全職員が参加できているわけではない。実践力には不安があり緊急時の連携には不安がないよう意識の統一を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練(夜間想定)を1回実施した。地域住民との連携による訓練が実施できていない。地震や水害等の災害時は地域との連携が重要な為今後の課題である。	広い敷地に3ヶ所の同法人施設があるが、訓練は単独で行っている。他の2ヶ所は応援体制の確認となる。開設して1年程であり、訓練はまだ1回のみで昼間帯に実施している。夜間を想定し夜勤とみなした職員のみで初期対応を試みている。次回(6月)では入居者も一緒に避難をしてもらう事、職員は消火器の使い方を体験する事などを挙げている。非常食や水などの備蓄もある。避難場所は隣接する1号館としているが、家族への周知も含め実情に即した検討を行う予定である。訓練の過程を細かく追えば課題が見えてくる。緊急時に職員だけの避難・誘導には限界もあると理解できていることから速やかな対策・検討に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄など、それぞれの場面でスムーズに受け入れて下さる声掛けがあり、その声掛けを統一したり、馴れ合いの言動にならないよう、その都度自己の言動を振り返る機会を作っており、お互いに注意し合える関係性に努めている。	入居時に、介助に当たるのは同性が良いかと確認し希望に沿っている。また入居者毎の性格を把握した声の掛け方もあり職員間で共有している。接遇の研修もある。入浴やトイレの介助では羞恥心等への配慮が必要だが、一人で出来る方には離れて見守り、脱衣所ではバスタオルの活用もある。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。入居時に説明する「個人情報の取り扱いについて」では居室の名札表示や、ホーム便り・SNSへの掲載まで細かく承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な会話から本人の考えや要望を聴きとれるよう、リラックスして話して頂けるような環境づくりに努めている。また、自己決定が困難な場合ではさりげなくきっかけを提案できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排泄など、生活の流れを業務に合わせさせまいと無理強いせず、その時の気分にあった生活をして頂けるよう要望を聞きながら生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の手入れ、羽織ものなど要望を聞きながら毎日対応している。散髪なども、家族対応で馴染みの美容室に行かれる事もあり可能な限りおしゃれを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本は法人からのメニューを参考にして様々な食材を使い調理している。調理の際は下ごしらえから味つけ、盛り付けなど一緒にいき、食器選びにも意見を頂く。嗜好による代替品の提供や能力にあった硬さなどにも臨機応変に対応している。畑で採れた野菜が直送される事もあり、希望を聞き馴染みの料理に変更する事もある。イベントでは手作りうどんやだご汁、団子など要望も聞き一緒に作っている。準備から片づけまで一緒に出来ている。	献立は法人の管理栄養士が作り1ヶ月分ずつが示される。家族から野菜の差し入れがあったり、法人の畑で採れた野菜が届けば献立の入れ替えや一品増えることもある。入居者のリクエストにも柔軟に対応でき、好き嫌いやアレルギー有無の把握もしている。対面式キッチンからは調理の音や匂いがして食事時を知らせている。入居者も一緒に準備を始め、片付けまでの流れは家庭と同じである。殆どの方は介助の必要もなく、職員は見守りを兼ねて同席している。誕生日は当日に祝いケーキが用意され、担当職員が盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事や水分摂取量を把握、共有し希望に応じて食事量の調節や栄養補助食品の提供を行っている。水分もお茶のみでなく、嗜好に合わせて様々な物を準備し提供している。水分摂取の少ない方にも飲んで頂く工夫を統一し行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室での口腔ケアを声掛けし、出来ない方にも個別で支援している。夜間は義歯洗浄剤への保管を統一し、舌苔のケアも個別に対応している。定期的に歯科医の往診も受け口腔内の状態を良好に保つ事ができるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のある方がほとんどではあるが、移動に付き添いが必要な方が多い為トイレでの混雑を避ける目的で、早めに声を掛ける事もある。夜間もトイレとポータブルトイレを使用できるよう、その都度本人の意向を尋ねて対応している。衣類の上げ下げ、パット交換なども出来る限り自身で実施出来るよう、パットの選択など自立にむけて支援している。	全体的に自立度は高いが、任せたままではなく早めの声掛けや付き添いを支援している。チェック表では排便に注意し、さり気なく確認も行っている。入居後にパット類のタイプ見直しを行い漏れがなくなった例では、日頃からその方に合うケアをという心掛けからの気付きである。また、トイレ内は車いす利用であっても十分な広さがあり、腹圧もかけやすい前方の跳ね上げ式手すりやひじ掛け、背もたれなど複数の補助具が設置され自立を助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、繊維質の高い食材やオリゴ糖などを用いている。水分不足になりがちな方にも形態を変えて取り入れている。運動の大切さも説明しながら一緒に運動する機会を作り、食後なるべくトイレにいけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を聴き取り、入浴方法や頻度を反映している。入浴を好まれない方には理由を職員間で考え、適した声掛けの仕方に努めている。部分浴や更衣の勧めなども本人様が清潔保持に関心を持って自発的に入浴して頂けるよう働きかけている。	入浴は週2回を目安にしているが、希望や必要があれば対応は可能である。嫌がる方には無理強いはいしないが、長く続けば職員の経験も活かし誘導している。1ヶ月に一度しか入っていなかった方を受け入れ、現在は通常の入浴となった例もある。ケア理念にある入居者の個性を理解した声掛けが功を奏し、成功体験として職員間で共有している。広い浴室には複数個所の手すりや両側から介助しやすく設置された浴槽、またリフト付きシャワーチェアがあることで職員の負担減と安全な入浴を支援している。脱衣所のベンチはゆったりと座ることができ、衣服の脱ぎ着や身繕いなど、出来る事は本人に任せながら見守っている。冬場のヒートショックにも備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごして頂いており、昼食後はしばらく休息されるよう声掛けしている。休息も個々で違う為安心して過ごしやすい場所(ソファやベッド)など把握し夜間の睡眠に影響のないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握しているかは不安がある。受診後の薬の変更などがある場合は理由を共有し副作用についても気になる症状があれば早めに医療関係者に情報提供を行うようにしている。服薬ミスのないように、すべてが大事な薬だと認識して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや調理、注ぎわけ、配膳の準備や食器洗い、食器拭き、洗濯物を干したり畳んだりなどの家事は自ら進んで関わって頂いており、身体を動かす事が苦手な方にも花壇の水やりなど別の楽しみを見つけて活動して頂いている。家族からの差入れもある為個別に提供できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や交流の為に天気をお天気を見ながら、希望を聞き一日1回程度は屋外へ散歩に出かけるようにしている。また、家族が受診対応される時に買い物や散髪など希望があれば一緒に出掛ける事が出来るよう配慮しており、感染対策で飲食を伴わない外出をお願いしている。ドライブも冬場を除き月1回程度実施してきた。感染対策をして、お弁当を持って行った事もある。	開設した1年前はコロナ感染症が5類へと移行した時期である。しかし終息した訳ではなく、対策を怠らずに外の景色・空気を楽しんでもらえるよう努めてきた。バスハイクでは法人の車両をドライバー付きで借り受け、何度も皆で出掛けている。周辺への散歩は日常的に行い、暑さが増す季節には日差しが弱まる時間帯を選んでいく。高台に位置する事業所では風が通り、眺めも良く五感を刺激してくれる。全く外へ出ないという入居者はいない。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様、ご家族様の希望に応じて支援している。多くはご家族に託されており、所持されている方はいない。その代わり、購入希望があればご家族へ相談するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が4名。自室で自由に連絡をとられている。他にも家族へ連絡して欲しいと希望があれば取次ぎを行ったりしている。手紙もやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は整理整頓を心掛けており、掃除もこまめに行っている。リビングのお茶はいつでも飲んで頂けるようにポットを準備している。リビングから椅子に腰かけた状態で外の庭園の花を鑑賞できるように工夫されている為草花と一緒に育てている。キッチンや掃除時の雑音は不快にならないよう注意し、カーテンの開閉や照明、空調なども天候や時間帯に合わせて調節し居心地良く過ごせるよう努めている。	一面を天井までガラス窓にしたリビングは明るく開放的である。居ながらにして外の景色や季節の花を見ることができ、縦型ブラインドで採光も調節している。華やかな装飾はせず落ち着いた色調で、入居者の動線上に行動を妨げる物もない。廊下の手すりは板型で、角を丸くし掴みやすく仕上げてあり、高齢者が暮らす家として随所に資材の工夫もみられる。調節柄、換気には注意を払い常時開けておく小窓もある。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、トイレや浴室はきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを準備いつでも使用できるようにしている。個別で趣味に没頭したり、他者と会話したりするなど皆さま思い思いに過ごされている。利用者様同士で居室を訪問し会話を楽しまれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族の希望を聞き取り家具の配置に反映している。居室には慣れ親しんだ写真などの私物を自由に置いて頂けるようにしている。居室のテレビも自由に視聴して頂いており、BSチャンネルも希望に応じて増設工事を行った。家族へ差入れをお願いされる方には冷蔵庫の持ち込みも許可しており賞味期限などは一緒に管理しながら食べて頂いている。	居室にはベッドの他に整理だんす・テレビ・テレビ台が備えてある。火気等の危険物以外に制限はなく、使い慣れた家具を自由に持ち込むこともできる。居心地よく過ごしてもらえるように家具類の配置や写真類の飾り方などは一緒に話しながら決めている。寝具はレンタルで定期的に交換され、週1回のシーツ交換では手伝う方もいる。居室内の洗面台は車いすでも使いやすい高さで、鏡を開けると歯磨き用具などが収納できる。身なりを整える姿見にもなる。居室ドアの中央には敢えて縦に細長い透明ガラスをはめ込み、中の様子が分かるよう設えている。特に夜間に役立ち、ドアの開閉音を立てることなく就寝確認ができています。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には洗面台も備え付けており、歯磨きや整容がプライバシーを守りいつでも出来るよう配慮している。居室にはネームプレートで自分の部屋を確認して頂け夜間など居室を閉めて休まれる為、小窓から安否確認が行えるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない